

公益社団法人 私立大学情報教育協会  
**英語教育・法学・政治学・国際関係学・コミュニケーション関係学グループ**  
**分野連携アクティブ・ラーニング対話集会**  
**開催要項**

## 1. 開催趣旨

昨年の対話集会では、学力の3要素を高めるためにICTを活用した教育・学修方法の工夫・改善、授業科目の相互改善を促進するための仕組みとICTの活用、ICTによる外部評価モデルの必要性和仕組みについて意見交換しました。その結果、ICTを活用したアクティブ・ラーニングは進んでいます。知識の活用や創造を目指す分野連携の取り組みは殆ど進んでいません。また、ICTを用いて授業内容を可視化し教員相互で理解し合う取り組みの必要性は認識されていますが、教学マネジメントを含めた全学的な取り組みは進んでいないことが半明しました。さらに、学修成果の質保証の取り組みとして、ICTによる外部評価モデルの新たな提案については、総論賛成の意見が多い一方、被服・美術デザイン分野では創造性の評価に適さないとの意見もあり、今後、各分野で実現に向けて詳細な議論を展開することになりました。

そこで、本年度は、3月に答申された第3期教育振興基本計画を踏まえて、問題発見・解決力を高める課題探求型のICT活用授業を中心に研究するとともに、ネット上で学内外の意見を取り入れたオープンな教育改善の可能性、ビデオ試問による外部評価モデル、知識の創造・実践力を目指す分野横断型フォーラム授業について議論を深め、ICTを活用した授業改善の方策を探求したいと考えております。

## 2. 対話集会のねらい

本年度は、問題発見・解決力を高めるアクティブ・ラーニングの質向上を目指して、以下のような観点で対話集会を展開します。

- ① アクティブ・ラーニングの質向上を目指して、問題発見・解決力の向上を図るICTを活用した課題探求型授業の研究を行います。
- ② ネット上で学内外の意見を取り入れたオープンな教育改善の仕組みについて、実現の可能性を探求します。
- ③ 学修成果の質保証に向けたビデオ試問による外部評価モデルの仕組み、実現に向けた課題等について認識の共有を行います。
- ④ 多面的に考え、本質を見抜く能力を目指す授業モデルを研究するため、ICTを活用した分野横断的な授業のイノベーション実現に向けた課題・戦略について意見交換します。

## 3. プログラム

- (1) 開催趣旨の説明
- (2) アクティブ・ラーニングの話題提供

### ① 英語教育分野

#### 「英語をツールに多面的な思考力の向上を目指したICT活用の授業提案」

これまでの言語の習得を中心とした英語教育から、英語を用いて多分野の問題発見・解決に繋がる教育に転換するため、ICTを活用して英語によるプラットフォームを構築し、異分野の学生、有識者、社会人などと意見交流する学びの仕組みを提案する。

上智大学 特別招聘教授 吉田 研作 氏

### ② 法学分野

#### 「『ICTを活用した分野横断法政策フォーラム型授業』の実践と改善」

今年度から実施している「分野横断法政策フォーラム型授業」において、参加学生、有識者、市民がネット上で提供する事実・理論・実務的知識等を構造的に体系化し、マインドマップ等の手法で可視化する授業方法を検討する。

神奈川大学大学院 法務研究科教授 中村 壽宏 氏

### ③ 政治学分野

#### 「事前・事後学修にLMSを用いて考えさせる教養教育の試み」

一方的な知識の伝達から、自分の頭で考えさせる授業への転換に向けて、LMSを活用して事前・事後学修の理解度を教員と学生間で相互確認する授業改善の取り組みを紹介する。

駒澤大学 法学部教授 清滝 仁志 氏

#### ④ 国際関係学分野

##### 「ICTを活用した国際関係学/平和学における創造的学修の試み」

～日中韓の平和のためにプロジェクトを企画しよう～

一方的な講義ではなく、テーマを明確にした「課題解決型学修 (PBL)」と「チーム主体型学修 (TBL)」を組み合わせ、学生アイデアや創造性を発揮できる「創造的学修 (CL)」をめざした試みを紹介する。

日本大学 法学部教授 佐渡友 哲 氏

#### ⑤ コミュニケーション関係学分野

##### 「学生のメディア発信力を用いた地域課題解決の取り組みと可能性」

地域の活性化を学生自らの問題として取り上げ、主体的に解決策を考察する手段として、ICT及びモバイル端末を積極的に活用する学修の仕組みと可能性について問題提起します。

青山学院大学 地球社会共生学部准教授 菊池 尚代 氏

#### (3) 意見交流

問題発見・解決力の向上を目指した課題探求型授業における ICT 活用を中心に、考える能力を身につけるアクティブ・ラーニングの授業改善を参加者全員による意見交流を通じて、認識の共有と対応策について探求します。また、教育改善に向けて学生や地域社会などを含む多様な意見をネット上で取り入れるプラットフォームの可能性と課題、学修成果の質保証を客観的に担保する ICT を活用した外部評価モデルの可能性、多面的な知識の組み合わせにより新たな知見を獲得する分野横断型のフォーラム授業について、以下のテーマで意見交流をします。

- ① 問題発見・解決力を高める課題探求型授業における ICT 活用の取り組みと課題
- ② ネット上で学内外の意見を取り入れたオープンな教育改善実現の可能性と課題
- ③ ビデオ試問による外部評価モデルの仕組み、実現に向けた課題・対応策
- ④ ICT を活用した知識の創造・実践力を目指す分野横断型フォーラム授業の必要性和導入の課題

#### 4. 参加対象者：国・公・私立大学の教員、職員、授業補助学生(TA・SA)など

#### 5. 開催日時：平成 30 年 12 月 22 日 (土) 14:00~17:30

#### 6. 会場：日本大学通信教育部 (市ヶ谷キャンパス 81 講堂) 東京都千代田区九段南 4 丁目 8-28

[http://www.dld.nihon-u.ac.jp/access\\_map/](http://www.dld.nihon-u.ac.jp/access_map/)

#### 7. 定員：100名 (先着順で受け付けます)

#### 8. 参加費：無料

#### 9. 参加にあたって

事前に、本協会がまとめた「大学教育への提言—未知の時代を切り拓く教育と ICT 活用」の 1 章 3.(2)(3)学修成果の質保証に向けた到達度の外部評価モデル：7~8 ページに記載)、2 章(ICT を活用した教育改善モデルの考察：英語教育分野、政治学分野、国際関係学分野、コミュニケーション関係学分野、法学分野)、「私立大学教員の授業改善白書(平成 28 年度調査結果)」をご覧ください。

<http://www.juce.jp/LINK/teigen.html>

<http://www.juce.jp/LINK/report/hakusho2016/hakusho2016.pdf>

#### 10. 資料について

当日、話題提供資料の縮小版を配布します。準備ができ次第、以下の URL に掲載しますので資料をご覧の上、参加ください。<http://www.juce.jp/senmon/active/>

#### 11. その他

話題提供と意見交換の様子 (意見交換は背面からの遠景) を個人情報に配慮して収録し、映像は編集後に加盟校に限定してネット上で動画配信します。また、意見交換による課題の整理は文章で本協会 Web サイトに掲載する予定にしております。

#### 12. 参加申込について

別紙の申込書に必要事項とアンケートを記入の上、FAX 又はメールで 12 月 19 日(水)までにお申し込み下さい。

公益社団法人 私立大学情報教育協会  
英語教育・法律学・政治学・国際関係学・コミュニケーション関係学グループ  
分野連携アクティブ・ラーニング対話集会  
参加申込書

※ 必要事項を記入の上、FAX (03-3261-5473) またはメール (bbseigo@juce.jp) にてお申し込みください。

- ・ご記入いただいた個人情報は、本協会の事務連絡及び委員会活動の案内に限定して利用させていただきます。  
・データベース管理作業の外部委託の際には目的外の利用や情報の流出がないよう、十分留意いたします。

『参加者記入欄』

※ できるだけ詳しくご記入下さい。後日、収録ビデオ配信のご案内や今後の活動のご案内をさせていただきます。

ふりがな ( )  
氏名: \_\_\_\_\_  
大学名: \_\_\_\_\_  
所属・役職: \_\_\_\_\_  
E-Mail: \_\_\_\_\_

アンケート 意見交流の運営に役立てるため、下記についてできるだけ記入ください

- (1) 先生のアクティブ・ラーニングの授業では、どのような能力の向上を目指していますか。(複数回答可)  
知識の定着 知識の活用 知識の組み合わせ 問題発見・解決力 表現力 発想・創造力  
実践力 その他(キーワードでお答え下さい \_\_\_\_\_ )
- (2) 上記に回答の能力向上に向け、授業でICTを活用していますか。  
活用している 活用を考えている 活用していない  
活用している場合、ICT活用授業の内容を下欄に簡潔に紹介下さい  
( \_\_\_\_\_ )
- (3) 教育改善の仕組みとして、学内外の関係者を交えてネット上のプラットフォームで意見交流するニーズについて、お答え下さい。  
 必要  不必要
- (4) 「必要」と答えられた先生に伺います。どのようなレベルのプラットフォームが必要とお考えですか、いずれかを選択いただき、その上で意見交流する対象者にチェック印を付けてください。  
 大学単独で構築 (  教員  職員  学生  有識者  地域社会  企業 )  
 複数大学連携で構築 (  教員  職員  学生  有識者  地域社会  企業 )  
 大学と地域社会で構築 (  教員  職員  学生  有識者  企業  地域の団体 )
- (5) 私情協では、学修成果の質保証に向けて、ICTを活用した外部評価モデルを提案しています。このモデルは、授業を受けた学生に対して大学外部の有識者がビデオ試問等を実施することにより、学修成果を評価するものです。このような外部評価システムのニーズについて、お答え下さい。(別紙の資料参照)  
 必要  不必要
- (6) 世界・社会に通用する思考力・判断力などの向上を強化・充実するため、自大学教員による授業以外に、学内外における多分野の関係者を交えた分野横断型による授業のニーズについて、お答え下さい。  
 必要  不必要  今後検討したい
- (7) (6)で「必要」と答えられた先生に伺います。多面的に考える力を訓練するため、ICTを活用して学外有識者から知見や助言の提供を受けたり、ネット上で異分野の学生がチームで問題発見・解決に向けた討論を行う課題探求型学修のニーズ及び今後の課題(例、学位プログラム・カリキュラム見直し、教員の意識改革、教員間の連携、他大学・社会との連携体制、ネット環境の整備、授業運営の支援体制等)について、お答え下さい。  
 必要  不必要  今後検討したい  
課題  
( \_\_\_\_\_ )